



Newsletter

Vol.26 No.3 May.2016

Council No.8 Japan Region



みんなの笑顔

不易と流行

カウンスルNo.8 第26期会長

山口久美子

第26期第2回会合は、4月23日(土)、シーサイドホテル芝弥生にて開催しました。懐かしい会場での会合は、今回が最後となってしまいました。東京オリンピックに向けて、この地域一帯が再開発されるそうです。カウンスルNo.8の長い歴史に一つのピリオドが打たれたようで、寂しい気持ちになりました。そこにずっとあることが当たり前のように思っていたことが、ある日突然、そうではなくなる。このことを思った時、「不易と流行」という言葉が思い浮かびました。「不易」とは、いつまでも変わらないことであり、「流行」とは、それぞれの状況に応じて変化することを言います。ITCで例えるならば、変化していくことの「流行」が、昨今の「分割の問題」で、いつまでも変わらない「不易」は、ITCの「行って学ぶ」という精神であるかと思いました。

私は、各クラブの活動状況を知りたくて、クラブ訪問をしてきました。どこのクラブにお伺いしても、クラブ間の交流が盛んに行われていて、会員の「学びの精神」と「みんなの笑顔」にもたくさん出会いました。自分のクラブだけに留まらず、一歩外に出て見聞を広げたならば、自分自身をステップアップするチャンスがたくさんあると思いました。忘れてはならないことは、私たちITC会員は「行う」ことで「学ぶ」のです。学んでいくために、これからのITCの未来にどのような夢を描くのかは、会員一人ひとりの肩にかかっています。会合に、高木清子リージョン会長がお越しくださり「アンケートの結果を尊重して、会員の声を国際に届けていく。」という力強いご挨拶を頂戴しました。

今後、日本リージョンがどのような方向に向かっていくのか、「不易と流行」の精神で、しっかりと考えて会員の皆様にとって有益な方向性が示されることを願っています。

今期テーマ

リージョン : 行動して解決を Action & Solution

国際 : Leading the Way 先頭を切って ...



カウンスルNo.8 第26期 第2回会合

日 時：2016年4月23日（土） 会 場：シーサイドホテル芝弥生



第2回会合は、清々しい新緑と微かに匂う潮風の中、建て替えの為この日が最後となったお馴染みの本会場で、ITC Div IV副会長 小菅あけみ様、メンバーシップ委員長 高山敦子様、リージョン会長 高木清子様始め 11名のゲストをお迎えし、総勢 99名出席のもと開催されました。

笑顔いっぱいの山口久美子会長の「変わらないものと変わるものがある中、大切なのは「行って学ぶ」[外に出て学ぶ]ということです。」というメッセージはエネルギーに全クラブ訪問を果たした経験に基づいた確かなものでした。提出された会計報告と請求は承認され、会則修正案も可決されて、現状に合わせて「カウンスル会長が欠員になった場合は第一副会長が会長の任務を務める。」と修正されました。続いて次期役員選挙が行われ、



会長：鳥谷まゆみさん（荏崎）、第一副会長：西村郷子さん（柏）、第二副会長：関原暁子さん（東京）、書記：川井恵子さん（横浜）、会計：田中眞紀子さん（東京）が選出されました。鳥谷次期会長から、来期のテーマは「毎日が即興劇」“Everyday is an improvisation”との発表がありました。続いて高木リージョン会長より「リージョン分割に関するアンケート結果の、分割反対 70%という会員の意向を踏まえて国際と対峙して行く。」というお話があり、ビジネスは終了いたしました。

午後のプログラムは恒例のスピーチコンテストでした。英語の部の出場者は3名で、優勝は信澤昭子さん（柏）。日本語の部は、7名の出場者で、優勝：斉木ゆかりさん（横浜）、二位：平尾 静代さん（東京）、三位：林 眞美子さん（東葛）でした。皆さん、クラブでの第1ラウンドを上回る素晴らしいスピーチでした。

閉会後はティータイムが設けられ、審査員とコンテスト、各クラブ間の和やかな交流の場となりました。

（文責：ウェブ・会報委員会）

スピーチコンテストを終えて

スピーチコンテスト委員長 土井牧代

ITC最大のイベント、スピーチコンテストが無事終わった。このコンテストの主役はもちろん出場者だが、審査員、プログラムリーダー、役割担当者全ての責任が果たされて初めて成り立つ。旗振り役の委員長の役割は仕事の内容を正確に伝え、理解してもらうこと。物品の購入、印刷などその他の仕事は委員さん達が担って下さった。カール・タカウエ様、酒井こづゑ様、そして5名のITC会員が審査を引きうけて下さった。PLの佐野さん 菊池さんは準備周到、落ち着いた態度でコンテストを進行して下さいました。スピーチは5つのカテゴリーに渡り、心の琴線に触れるもの、生きて行く上での示唆に富み励まされもの、新しい情報など其々機智とユーモアに溢れていて、共感と感動、笑いが会場に広がった。皆様の笑顔が当委員会への最高の御褒美であった。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。信澤昭子さんと斉木ゆかりさんのリージョン大会でのご活躍にエールを送ります。

お知らせ

国際直結の無所属「Morioka English Club」のチャーター式典が、7月9日（土）アイーナ・会議室（いわて県民情報交流センター）にて執り行われます。日本リージョンに所属しないことは残念ですが、世界にITC会員が増えたことを祝いたいと思います。

スピーチコンテスト 優勝者に聞く

スピーチコンテスト 優勝者に聞く

英語の部



前列 左が筆者 右はPL

An unexpected gift 信澤 昭子 (柏)

今まで過去何回かスピーチコンテストに出場してきましたが、今回が一番楽にスピーチを作ることが出来た様に思います。予期せぬ手首の骨折と初孫の誕生という二つの大きな出来事を経験し、これをテーマにスピーチをと考えていた時に“Every day is a new day”というぴったりの論題を頂き、時系列に話を進めて行きました。実際にスピーチを作りながら、気持ちの整理が付き慣れない孫の育児に対する不安も徐々に喜びに変わっていきました。日々成長する幼子と共に私自身も新しい事にチャレンジして成長出来ればと願っています。この様に素直な気持ちでスピーチを作れたのも、30年近いITCでの勉強の賜物かなと感謝しています。4月末日から嫁が復職します。さあ、新米グランマ始動開始です。

日本語の部

学生たちに教えられ 齊木ゆかり (横浜)

今回、私はクラブでの発表後、吟味したり、練ったりすることなく、ダメダメの状態の本番に臨みそうになりました。本番の三日前に学生たちを相手にリハーサルを試みたら、予想以上にブーイングの嵐。「話し方が単調すぎる」、「はじめにテーマに関する何かに触れた方がいい」、「構成がよくわからない」、「その接続詞は使わない方がいい」等々…。まさか、これほどまでに言われるとは、よほどひどいスピーチに違いない、と焦った私は、それから、必死で練り直し、その結果があのスピーチです。6分という記録的な短さはスポンと抜けた部分があったから…。とにかく、まさかの優勝で、心は千々に乱れています。が、せっかくだいたいだいたチャンス。カウンスル No.8 の名に恥じないよう、そして、優勝したこの「成功」にありがたく感謝し、励みます。皆様、御指導よろしくお願い致します。



左から4番目が筆者、左端はPL

総 評

審査員代理 岩佐 圭子 (東京)

カウンスル No.8 第26期 日英スピーチコンテストのスタートは、マーガレット・サッチャー氏の言葉を引用したインスピレーションで、幕明けに相応しく、印象的でした。英語の部のコンテストは3名、日本語の部は7名で、プログラムリーダーは、お二人とも、力強く、しっかりした司会振りでした。各スピーカーは、クラブの優勝者だけあり、よく勉強され、上手にまとめられました。レベルは年々進歩しているように思いました。なかでも、ボディランゲージや感情移入による豊かな身体表現が高得点を獲得したように見受けました。昨年度に引き続き、審査員の構成は外部からの招聘を2名にとどめ、代理2名を含め、カウンスル内で調達されたことはよかったですと思います。審査員や審査員代理を務めるのもITC教育の一環ですから、勉強の一つと考えて、良い学びの場であったと思えました。

講師をお招きしてワークショップ

豊かな表現力を身につけるために

アクア千葉クラブ

「豊かな表現力を身につけるために」と題して、講師に山野秀子氏を迎えてレクシコロジー & ワークショップを行った。新年にふさわしい設えの会場に、14名ものゲストを迎えて久々ににぎやかな例会となった。山野さんはフリーのアナウンサーとして様々な分野で活躍している方で、実に美しい声で、品格のある日本語をお話になる方である。日本語の語彙についてレクチャーの後、全員で「素読」を体験。実生活で文字を声に出すことに集中することはめったにないから、新鮮な時間だった。その後「香楽」についてのワークショップ。「香楽」とは香りから感じる色、季節、音、風景、心情などを絵に表して、その後二人一組で描いた絵について自分なりの言葉で表現するというものである。みんな生き生きと語りあい、あちこちから笑い声が起き楽しいひと時であった。最後に山野さんによる詩の朗読があり、心地よい余韻とともにプログラムは終了した。美しい言葉の世界に酔いしれ、また言葉の持つ力を改めて感じたひと時だった。 第一副会長 菊池秀子 記



潜在能力の開発

東京クラブ

東京クラブ4月例会のプログラムはワークショップ『潜在能力の開発』でした。大阪クラブの坂口正子氏をワークショップリーダーにお招きし、昨年の世界大会で好評を博したプログラムを実施していただきました。ワークショップでは、参加者全員がパズル解答、コンピテンシー（成果達成の行動特性）の自己評価と他己評価の比較、



模擬面接などの多様な作業を体験しました。その中で潜在能力は「把握、開発することで可能性を広げる」「挑戦することで開発される」「アフメーション（ポジティブな自分をイメージすること）により有効に引き出される」「新しいことへの挑戦でコンピテンシーが培われ、より能力を発揮できる」と

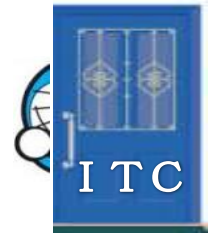


いうことを学びました。当日はクラブ会員に加え、他クラブ及び外部から9名のゲストにご参加いただきました。リーダーのユーモアあふれる語りと興味をそそる作業で80分という時間があっという間に過ぎました。みんなを前向きにさせる大変有意義なプログラムでした。

第一副会長 平尾静代 記

どこでもドアノックプロジェクト

第2弾



クリスマス ミニコンサート & ミニバザー

2015.12.16 彩玉クラブ

2015年最後の12月例会を12月16日、いつもの会場である熊谷市東公民館ではなくパブレストランを会場にして開催しました。ビジネスから始まり食事会、バザー、ミニコンサートの順で盛り沢山のプログラムになりました。ゲストとして、懐かしい元メンバーや友人・知人など10名をお迎えし、メンバー手づくりの料理も加えて立食パーティ方式で行い、参加者一同で楽しく賑やかな会話に花を咲かせました。



ミニコンサートは、元劇団四季の岩崎桃子さん、元宝塚の真笛ひびきさん。そしてピアニストの「あいあいさん」の3名でした。3名とも志を高く掲げ長い間努力を積み重ねてこられた方々です。まさに「継続は力なり」のお手本通り素晴らしい表現力とパフォーマンスで、私たちが魅了したひと時でした。

昨年は自然災害や事故も続き、多くの人々の生活を苦しめた年でしたが、10月に入ってから山梨県韮崎市出身大村智さんや地元埼玉県東松山市出身 梶田隆章さんのお二人のノーベル賞受賞の明るいニュースやフィギュアスケート羽生結弦さんたちの世界最高の演技に日本人ばかりではなく人類のこれからは大きな勇気と希望を与えてくれた年でもありました。ITCの理念でもあるコミュニケーション技術を身につけてそれぞれの夢実現を誓い合った一年の締めくくりにもふさわしいイベントにすることが出来ました。

会長 田口美恵子 記

江戸文化 あれこれ

2016.1.19 東京クラブ

初めての東京クラブ訪問にちょっとドキドキ。なにせそうそうたる顔ぶれが揃った老舗クラブなのだから。でも会場に着くなりホスピタリティあふれる対応に緊張感もどこへやら。あでやかな着物姿の方もいらして華やかな雰囲気にもまれて総勢31名による例会となった。ビジネスは滞りなく進み、昼食後お待ちかねのプログラム！

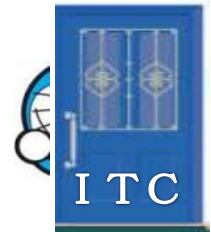


「江戸文化あれこれ」のテーマでパワーポイントを用いて3人の方が「庶民の生活」「蔦屋重三郎」「歌舞伎」に焦点をあてたリサーチスピーチをし、その後全員が「私の好きな江戸文化」と称して2分スピーチを行った。みんな話したいことがいっぱいでもチンとかねを鳴らされるたび思わずスピーカーが絶句する姿に笑いが起きた。それぞれのスピーチが興味深く、またパワーポイントを用いることで視覚的にも楽しめた。例会にマイクを使っていることも私には新鮮な驚きだった。和やかな中にも活気がありさすが東京クラブ！と合点。江戸文化の片鱗に触れた楽しいひと時だった。菊池秀子 (アクア千葉) 記



「私の好きな江戸文化」と称して2分スピーチを行った。みんな話したいことがいっぱいでもチンとかねを鳴らされるたび思わずスピーカーが絶句する姿に笑いが起きた。それぞれのスピーチが興味深く、またパワーポイントを用いることで視覚的にも楽しめた。例会にマイクを使っていることも私には新鮮な驚きだった。和やかな中にも活気がありさすが東京クラブ！と合点。江戸文化の片鱗に触れた楽しいひと時だった。菊池秀子 (アクア千葉) 記

どこでもドアノックプロジェクト



まわし読み新聞で問う力

2016.4.14 菫崎クラブ



菫崎クラブは、4月例会9名全員出席のもとNIEに学ぶ「まわし読み新聞で問う力」と題してお薦めプロジェクトを行った。方法として4月7日の山梨日日新聞を読み、それぞれが一番注目、関心のあった一つの記事に対して考え、ものの見方を広げて発表を行った後、感想や詳しい説明を聞いた。この「NIE活動」とは新聞を活用した教育のことで、問う力を磨いていく、プレゼンテーショ

ンすることでアピール力が身につく、他の人との発想の違いに気付くなど、新聞を利活用しての学びの方法は様々であり、学校で取り入れ効果を挙げていることが報告されている。

菫崎クラブも初めての取り組みでしたが新聞記事を読み、一人として同じ記事を選ぶことなく、それぞれの観点で選んだ記事への思いが伝わり、大いに盛り上がり学びにつながった。また機会を見て「まわし読みで気付き」記事の幅を広げて論議するなどの意見も出ました。

副会長 櫻井をさみ 記

盛岡クラブを訪ねて

教育の為、度々、盛岡クラブご訪問の小菅さんに3月、4月のワークショップの様子を語っていただきました。



22年目の盛岡クラブは全員有職者で、夜6時から始まります。6人の会員ですが、いつもの出席は4人。3時間近くかけて山田町から参加する会員もいます。複数のお役を掛け持ちし、ワークショップリーダーにも全員が挑戦しています。3月は「説得するスピーチ」のワークショップで、教育資料C96 主張と攻撃からポイントを説明した後、各自の説得スピーチを発表し、ポイント毎の評価を心掛けました。これは論理的な思考をするトレーニングとしても効果がありました。



4月は「ジェスチャーと癖」のワークショップで、まず意識的なジェスチャーと無意識のジェスチャー(癖)の違いを認識。自分の「癖」がどんなものか、ペアになって調査開始。各自の発表の後でお互いに自己再発見。次に意識的なジェスチャーを頭、顔、目、口、肩、腕、手、歩き方、立ち方・・・など順番に練習をして、効果的なスピーチの方法を実践してみました。終了後、みんなの表情がにこやかに見えたのは気のせいでしょうか？

小菅あけみ (サンデー) 記

今期を振り返って 私のクラブを漢字1字で表すと

満 ・ 東京

- 1) 少々くたびれた会長をよくサポートして下さり、例会は明るく活気に満ち、出席率も高く (95%)、新旧調和のとれた円満な一年で満点です。
- 2) 唯一叶わなかった会員増を期待します。そして来期のボードと皆様に伸び伸びとご活躍いただきたいと思います。東京クラブの良さを生かしつつ、思い切って新しい風を吹かせるのもいいですね。

熟 ・ 柏

- 1) 若さはとっくの昔、でも、老いはまだまだの会員たちが ITC で培った成果をプログラムに反映、じっくり味わった一年でした。
- 2) 分割問題で大揺れに揺れた今期でしたが、トップの揺るぎない信念をバックに、クラブでは平常心を失わず落ち着いて活動できたことを頼もしく思いました。来期も、将来を真剣に考えながらも振り回されることなく生き生きと柏クラブらしい活動を続けてほしいです。

輝 ・ 東葛

- 1) 会員数9名キープ。声楽家による声の訓練、会員による4つの講座など多彩なプログラム。新人がカウンスルスピコンに入賞。輝いた年だった。
- 2) 先輩は後輩が「一日も早く」ITCの全体を把握、活躍できるようにと卒啄同時のたどえのごとくに指導、来期に向かって目覚ましく輝こうとしております。和を大切にし、一同楽しく学んでおります。

クラブ会長にお聞きしました。

- 1) 漢字1字の解説
- 2) 来期に期待すること

継 ・ 筑波

- 1) まさに「継続は力なり」を実感した今期。メンバー一人一人忙しい中で、今まで培ってきた力を出しきって乗り切った感があります。
- 2) 新しいメンバーの加入、忙しい中でも楽しく有意義なトレーニングの時間がもてること、メンバーが生き生きと活動できること、今まで築いてきたつながりを大切にしていけることを期待します。

和 (Peace) ・ サンデー

- 1) クラブ発足当時、役員や委員会選定及びその引継ぎに関し混乱があったが、会合をもって平定し、その後平穏が続いている。
- 2) 会員が少ないので増加を推進したい。会員は会合には興味をもっており、健康上や家庭の事情で辞める可能性の人が出るのが懸念される。スピーチコンテストでは10名程度の来訪者があり、そのうち何人かは有望である。

基 ・ 葦崎

- 1) チャーターメンバー(現在1名)のご指導よろしく、基本に忠実にビジネスを進行しています。
- 2) 来期役員会はベテランと新人が約半々という丁度良いバランスで運営されます。新人とは言えもう入会5年近くになるので、活躍が期待されます。他クラブとの交流でクラブに新たなページが加われば更によいですね。

私のクラブを漢字1字で表すと

拓・彩玉

- 1) 夢を拓く、開拓するの意
- 2) ITC の理念である豊かな人間関係創りは、コミュニケーション技術の向上とそのスキルを学び、大いに自らの行動によって実践することにより、初めてその人の真価が問われ、他からの評価となる。グローバルな視点で多様な生き方、考え方を認め合いながら広義な意味での活動が更なる飛躍につながるものと確信しております。

真・盛岡

- 1) クラブ員全員で本当の ITC の学びを純真に一途に学びたいと考えます。
- 2) 来期への期待は、望み薄ですが、一人でも多くの仲間が出来る事です。

働・花巻

- 1) 全員が働き盛り。仕事・経営・家そして ITC と、すべてを熟すマルチな女性たちの集まり。
- 2) 日々の例会で、自身のフィードバックから学べるようなプログラムの工夫。例えば一度きりごとの学びではなく、2ヶ月かけて学べる機会を創る。また遠方ゆえに旅費の積み立てをし、全員が大会に参加できるようなシステムを組んでいきたい。

クラブ会長にお聞きしました。

- 1) 漢字1字の解説
- 2) 来期に期待すること

躍・横浜

- 1) 現役で活躍中の男性が会員に加わり、資格認証取得者数が増え、他クラブからゲストを迎えての活発な活動を展開致しました。
- 2) 今期のクラブ活動を踏まえ、会員の更なる向上を目指し、他クラブへの訪問、カウンスル、リージョン活動にも積極的に参加し、会員の意欲を高め、新入会員の増加に努めるといふ躍進の来期にしたいと思います。

輪・アクア千葉

- 1) 手を繋ぎ輪になった会員達は、しなやかに時には力強く活動してくれました。会長はただ皆の輪舞に見入るのみ。一年の感謝をこめて。
- 2) 19 期を迎え、新会長の下、役員及び委員会の任務を再確認し横の連絡を密にとること、また少人数故に課せられる重い任務も変わらぬ熱意と責任感で取り組んで欲しい。培ってきた会員同士の絆の強さを信じてやみません。

編集後記

- ・ 気象、世界情勢、株価、ここへ来て地震と「不安定な」が枕詞になる一年でした。が、「今期の漢字1字は？」の答えに「ITC は元気」を、又、重複漢字が無いことにその多様性を実感しました。(R.M)
- ・ 委員長のアイデアと行動力に目を見張る一年でした。皆様にもこの熱意を紙面から感じ取っていただき、愛読者が増えることを期待しています。(ES)
- ・ スロースターターの私にとっては、何かと気忙しい一年でしたが、良い経験になりました。会長始め、快く執筆に協力くださった皆様、ありがとうございました。(K.Y)